

の研究を紹介され、シミュレーションの例として、タイでの降水日変化や南極大陸のカタバ風を再現したアニメーションを示していただきました。また非静力学モデルの課題として降水の量的再現とスキームの保存性を挙げられ、地球シミュレータなど計算機が高性能化する中で、これらの課題に若手研究者が挑戦することへの期待を話していただきました。

堀之内先生には、修士課程から現在までの研究やその動機について、年代順に紹介していただきました。波動の励起源と伝播現象の探求という一連の研究の一例として、大気大循環モデルを使って赤道下部成層圏に存在する準二年振動の駆動源を調べた研究や、メソスケールモデルを用いて積雲対流が引き起こす大気重力波を中間圏までシミュレーションした研究を説明していただきました。またデータ解析や数値計算に役立つプログラミング言語 Ruby の利点や期待について教えていただきました。

一般講演・ポスターセッションでは多くの議論をしていただく為に、申込受付期間中や受付期間後に、積極的に講演依頼の活動を行いました。その結果、例年以上の講演応募を受け、議論が活発に行われた感があります。特に宿泊部屋を講演室とした会場では、少人数で近距離の議論がなされていたと思います。しかしアンケート結果では、質問時間がもっと欲しいという意見が多数あり、スケジュールの設定の難しさを痛感しました。

交流イベントとしては、研究室紹介（団体も含む）やバーベキュー、立食パーティーを実施しました。研究室紹介では20余団体からの紹介をしていただきました。これは、参加者がお互いを知ってもらうよう、例

年行われているものです。各団体とも短い時間の中で工夫しながらアピールをしている様子が伝わってきました。またバーベキューを行うにあたって空模様が心配されましたが、雨に降られることもなく無事に終わることができました。

今回の特徴としましては、参加人数が過去に例が無いほどの大人数となったことが挙げられます。これは、参加費を抑えたことや環境が良く大人数が集まれる施設であったためだと考えられます。またメーリングリストやホームページを作り、特に web 上にて申し込みを行い作業量の軽減化を図りました。講演における特徴としましては、研究室紹介や講演発表時にプロジェクトでの発表がほとんどであり、写真や動画を効果的に活用した発表が多くなったことが挙げられます。

2004年度の日本気象学会夏季特別セミナーは、東北大学へ引き継ぐことになりました。今回の夏の学校では、招待講演で気象学の第一線の研究にふれることができ、また普段会う機会が少ない、他大学・団体の若手研究者の方と交流することができたと思います。今後とも、参加者と運営側が一体となつていい雰囲気を作りだし、夏の学校が一層盛り上がることを願うばかりです。

最後に、参加していただき夏の学校を盛り上げ運営作業に労力を提供してくださった皆様、このような企画の機会を与えてくださった日本気象学会関係者および講演企画委員会の皆様に心より御礼申し上げます。なお、夏の学校を開催するにあたり日本気象学会講演企画委員会より援助をしていただきました。ここに厚く御礼申し上げます。

## 新刊図書案内

表 題	編 著 者	出 版 者	出版年月	定 価	ISBN	備 考
中国・四国地域の農業気象	日本農業気象学会中国・四国支部	農林統計協会	2003.09	¥2,500	4-5410-3095-0	

注：表中で定価はすべて本体価格です（特記したものを除く）。